

平成26年度病害虫発生予察特殊報 第4号

ナシにおけるヒメボクトウの発生について

佐賀県

1. 発生を確認した害虫：ヒメボクトウ *Cossus insularis* (Staudinger)
2. 発生を確認した作物：ナシ
3. 発生状況
 - 1) 平成26年6月下旬、県内のナシ園において、枝幹から虫糞や木屑が出ている樹が確認された(図1)。
 - 2) 枝幹内から採取した幼虫及び蛹から羽化した成虫を門司植物防疫所に依頼したところ、ヒメボクトウと同定された。
 - 3) 発生地域に設置したフェロモントラップ(7地点)のすべてにおいて、誘殺が確認されている。
4. 本種の分布
 - 1) 本州、九州等で分布が確認されている。
 - 2) これまではポプラやヤナギ等を加害する森林害虫とされていた。しかし近年、日本ナシでの被害が2005年に徳島県で報告されて以降、日本ナシやリンゴにおける被害が主に関東から東北地方にかけて報告されている。
5. 本種の生態・被害
 - 1) 成虫の開張は40~60mmで、灰褐色の前翅には黒い波状の線が複数見られ、ほぼ全身が鱗粉で覆われる(図2)。成虫の出現時期は主に6月下旬から7月頃である。
 - 2) 卵は粗皮の隙間などに卵塊で産み付けられ、孵化した幼虫が枝や幹に穿入する。
 - 3) 幼虫は背側が赤紫色~赤褐色を呈し、集団で樹木に穿孔して摂食する(図3及び4)。幼虫で越冬し、卵から羽化するまでには数年かかるとされている。
 - 4) 幼虫は、被害樹の穿入口から木くずと虫糞が混ざったフラスを排出する(図1)。幼虫が樹木内を集団で摂食するため、樹幹の衰弱や枯死の原因となり、生産性が著しく低下する。
6. 防除対策
 - 1) 被害部位は翌年以降の発生源となるため、幼虫の穿入口やフラスを見つけ次第枝を切除し、圃場外へ持ち出して適切に処分する。
 - 2) 冬季休眠期には粗皮削りを行い、粗皮の隙間への産卵を防止する。
 - 3) ふ化幼虫の樹体内への食入を抑制するために、7月上~下旬頃にフェニックスフロアブルを散布する。散布の際は、薬液が樹幹にも十分付着するよう丁寧に散布する。

薬剤名	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
フェニックスフロアブル	4,000	200~700L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布

- 4) 樹体内に食入した幼虫に対しては、スタイナーネマ・カーポカプサエ剤(商品名：バイオセ

ーフ) の樹幹注入を幼虫発生期に行う。なお、本剤は実場面における殺虫活性が期待できる防除適期 (4 月～10 月末頃) のみの製品流通となっているため注意する。

薬剤名	使用量	希釈液量	使用時期	使用回数	使用方法
バイオセーフ	2500 万頭 (約 10g)	25L	幼虫発生期	-	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで散布または樹幹注入

※各薬剤の登録内容は平成 26 年 9 月 26 日現在のものである。農薬を使用する際は、最新の使用方法、注意事項等を必ず確認する。



図 1 被害樹から排出されるフラス (赤矢印)。



図 2 ヒメボクトウ成虫と蛹殻。



図 3 樹体内の穿孔痕 (横断面)。



図 4 樹体内に穿入した幼虫 (赤矢印)。